



弘大農学部同窓会会報

第1号

昭和58年3月22日発行
発行 弘前大学農学部同窓会
TEL. 0172-36-2111
振替 盛岡4-564番
印刷 (株) 笹 軽印刷

同窓会の発展をねがう

同窓会のみなさん、ますますお元気で御活躍のことでしょう。心からお慶び申し上げます。

昨年は各地で同窓会支部の発足があり、福島支部会には欠席しましたが、他の地区にはすべて出席させていただきました。それで同窓会が全国的な広がりをもって発展している様子を直接感じとることができ、会員の諸兄弟がそれぞれの職場で、りっぱな業績をあげておられることを知りました。本当に嬉しい愉快な思い出となりました。遅ればせながらお世話になりました皆様に厚く御礼申し上げます。

社会に出ても、同じ学校に学んだということが、他の難かしい論議や説明を抜きにして、母校にまつわる話題から直ちに胸襟を開く間柄になることもありましょう。また異なった

名誉会長 佐々木 信 介
職場に勤務する者が、ざっくばらんな雰囲気の中で、重要な案件が解決をみることもありましょう。同窓生というのはほんとにありがたいものです。しかし同じ職域にあるものでは、自らは全く意識してもいないのに、他人からはいわゆる学閥という目でみられることも応々あるので、お互い注意すべきでしょう。

わが学部も創設以来30年を越え、卒業生は2134名となりました。いろいろな意味で同窓生同志の絆をいよいよ固めねばなりません。それが同窓生諸氏の発展につながるだけでなく、後に続く在学生の士気を高めることにもなります。また、農学部の存続にまで論議が及んだという臨調態勢下において、なおかつ母校が更に充実発展していく基盤となることでもありましょう。みなさま方の更なる御健闘をお祈りするゆえんです。

同窓生に寄せる

弘前大学農学部卒業の同窓生は、長かった冬も終わり、春の陽ざしで黒いアスファルト道路に埃が舞い初める頃、大通りと裏道では歩き方にも気を配る思いを、特に卒業式当日には経験した筈である。

昭和28年に弘前大学文理学部農学科を卒業したので私自身は卒業後30年となる訳だが、農学部としての設置認可が昭和30年だから、

弘前大学農学部同窓会

会長 横 山 宏

明後年が農学部設置30年記念の年である。

人間生まれて30年となれば働き盛りだが、大学卒業後30年ともなれば50の坂を越してしまい、そろそろ頭の髪やら健康やらが気になってくる。40、50は鼻たれだと政治家の誰かが言ってるが、気持だけはまだ青年のつもりだ。

農学部も設置認可以降今日まで施設設備の

充実、学科の増設、教職員の充足等めざましいものがあり、認可当時の状況を知っている一人として感無量である。

私の入学、卒業の頃の大学はまだお粗末で、旧制弘高の校舎（今は解体新築で面影なし）と隣接していた旧軍隊施設の一部を使用していたものだ。

憲兵隊舎から師団司令部、旅団司令部と順次農学部校舎に模様替えしていくのだが、農学部長室は旧第八師団長室があてられ、リノリュームが敷かれ、豪華な壁紙（後日談だがドイツからの輸入品であった）を張った部屋で、県内のどんな偉方よりも立派な格調高い執務室であったと記憶します。

そのほか旧軍隊高級将校が執務、会議に使われた部屋が少しばかりの手直しで教室、講義室、実験室に早変りした。

戦後の管理不十分等でくたびれた色になっても建物だけは堂々とした洋風館であった。

気味の悪い遺物も校内外にあったものだ。憲兵隊舎内の留置場、高いコンクリートの囲いの中の重営倉、旧陸軍基地の敷地を弘大千年農場として開墾整地中に出てきた無数の骨入り壺（発掘壺は長勝寺へ移された）。その頃の教官、事務員も今は殆んど退職されてさびしい思いだが、学生、教官、事務員が家族的ムードで過ごした時代でもあった。学生一人でも講議が行なわれたし、コンパも合同の場合がしばしばであった。当日張り出された

休講などで我々一回生4人は丁度マージャンのメンバーということで無理に教え込まれて時間を過ごすこともあった。この4人も今は山口県農試、北陸農政局、青森県職と離れているため、出張の折に立寄るとか、来青の時に顔を合わせるかで、4人が揃う機会は少ないのが実情である。

最近のように、1年で120余名もの卒業となれば、卒業式の別れのあと生きて逢えない同級生があっても無理からぬことではあるが、少なくとも毎年同窓生の絆の会合には出席もしくは連絡をとって欲しいものである。

同期の集いや専攻教室、或は同窓会の支部会合、職場内の同窓の会合等、身近で結構、その気になれば何かと連帯は深く強まるものであり、それが各般への発展に結びつく機会が多くなるとういうもの。

さきに述べた如く、農学部設置30年記念の年は昭和60年である。学部と同窓会は連絡のうえ、記念行事の準備をこれから進めたいと考えているが、記念の機会には、それまでの卒業生約2500名一堂に相集い、想いを新たに、又、業績を讃え、弘大農学部卒業生の心意気を県内外に誇示したいものと同窓会現役員一同張切っているし、その日のことをお互いに夢見ながら、精進、努力しよう、と呼びかけるものである。同窓生諸兄の御健勝を祈る。

母校創立30周年記念事業に結集を

副会長 土岐政雄

会員の皆様には、夫々お仕事に御精励のことと存じます。

皆様には、前の総会でお知らせしている所ですが、同窓会に於て、来る昭和60年が学部昇格30周年に当ることから記念事業の実施を計画しておりましたが、農学部教授会が去る3月9日に開催された折、昭和60年を本学部創立30周年とし、記念事業を行なうことに決

定されました。この教授会の決定により、同窓会としても全面的に記念事業を支援することになりました。

顧みますと、文理学部農学科時代、又、学部昇格の当初は学生の数より先生方が多いこと、又縁に囲まれた旧第八師団司令部や憲兵隊司令部の古い校舎等現在の近代的施設や設備からは想像もつかない時代もありました。

創立30周年を真近に控えた今日、同窓生の皆様は社会の中核として大活躍されております。一般に、ある学校が独り立ち出来るには創立以来30年はかかると言われております。これは卒業生が実社会にしっかりと定着する期間をさしております。私達同窓生はようやくこの期間にたどりついたわけで責任の重大さを感じないわけにはまいりません。

弘前大学農学部は、全国の国立大学農学部の中で最も新しく、その上最も小さい農学部と云われております。又昨今の行政改革の中で農学部の統廃合についても議題に上がっていると云われております。しかし弘前大学農

学部は最も農業と密着した大学として自負出来るものでございます。

創立30周年を大きな飛躍の第一歩としたいと思います。したがって同窓会としても、学部で行なう記念事業をより一層有意義なものにするため支援する必要があります。

そこで、記念事業を支援するに当たり、会員の皆様に献金の御協力をお願い申し上げる次第です。具体的作業は今年の総会後の5月から入る予定ですが、創立30周年記念事業に向けて同窓会員全員の力強い御支援をお願い申し上げます。

農業経営学講座

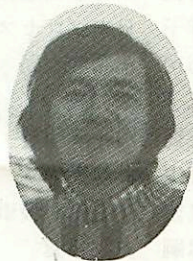


本籍は東京で、昭和47年に東京大学農学部農業経済学科を卒業し、農林水産省の農業総合研究所へ入り、本所で4年、山形県の支所で5年余研究を継続して

豊田 隆

のち、本学へ奉職しております。趣味は、30才から一念発起して始めたスキーで、一昨年SAJ二級をとり、来シーズンは大鰐で一級へ挑戦するのが夢です。夏はランニングなど基礎体力づくりに取り組んでおります。どうぞよろしくお願いいたします。

土壌学・肥料学講座



生まれは静岡県、名古屋での学生生活を経て、昨年4月、土壌学・肥料学教室へ助手と

青山 正和

して赴任してまいりました。現在、堆厩肥に関することを主たる研究テーマとしております。若輩ながらも、弘大農学部の一員として頑張りたいと思います。どうぞよろしく。

農業機械学講座



旧制二高、東北大学工学部を卒え、農林省農事試験場で15年、農業機械化研究所で18年の研究生活を送ったのち、一昨々年弘大にや

金須 正幸

って参りました。生きのいい学生達に毎日接するせいか気が若くなり、最近は何等と酒をくみ交しながら、旧制弘高の寮歌などを放歌高吟するのを趣味とするようになりました。悪趣味と云うべきでしょうか。(58才)。

農業造構・施設学講座 月 館 光 三

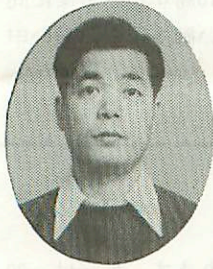


昨年7月に着任しました。出身は函館市、盛岡農専昭24卒です。これまで岩手大、山形大を歴任。趣味は楽器、百人一首、将棋、マー

ジャンなど、近代五種は一通りこなします。弘大の学問的雰囲気や、弘前周辺の四季の移り変わりが気に入っております。津軽の殿様は本当に良い土地にお城を構えたものと感謝しております。今後宜しくお願い致します。

農地工学講座

萩原 守



昨年10月赴任致しました萩原です。北大→東大→弘大と北と南を往復しています。北海道に居たのは8年程前でしたので今年の冬は

東京に比較して大変に寒いものを感じました。しかし、At homeな雰囲気の弘大農学部での大学生活は快適です。私の研究室は南側の3階で大変に眺めが良く、雪の降る様、晴れた空を観賞しています。

新たに迎えた正会員

農 学 科 (27名)

田中 満 本学大学院
林 浩之 神戸大学大学院
和気 真理 東京農工大学大学院
泉山 明大 北海道庁
井上 達志 本学研究生
佐藤 知己 岩手県
長浜 隆之 北海道農協学園
若崎 昭男 三沢市農協
横山 勇樹 自営(農業)
秋里喜久治 北海道庁
稲葉 弥生 北大生協
菊地 学 室蘭信用金庫
佐々木伸幸 青森県
三上 真史 青森県農協
伊藤 晃 東京青果
梶田 雅也 北海道庁
前木 正 北海道農協
吉崎 憲二 未定
押田 敏成 B I G I
下田 耕平 高橋税務会計事務所
米沢 稔彦 雫石町役場

寺田 隆至 自営(農業)

大井 敏之 未定
坂田 裕治 青森県
須之内浩二 茨城県
田中 寛治 青森県
松橋 秀男 秋田県

園芸化学科 (40名)

淡路 祐光 オリエンタル酵母工業
鎌田 牧子 家事手伝い
材木 郁子 未定
斉藤 浩 モロオ
西川 伸治 未定
宮川 利明 山崎製パン
安田 智彦 ポッカコーポレーション
衛藤 博 日本レダリー
西亦 英一 自宅勉強
八木橋和範 未定
井上 朋子 パイプ技研工業
上田 哲郎 大塚製薬
酒井 永 日本医薬品工業
高橋 圭子 総合計画研究所

対馬 康孝 わかもと製菓
中出口幹彦 日本ミナポリアミテッド
畠山 理佳 ラグノオささき
平賀 淳 ブリストルマイヤーズ
有馬 智俊 東部兼商販売
海老名祥子 日本プロセス
葛西 秀司 東北農政局
塩田 晶子 ソフトウェア
マネジメント
中島 正幾 六花亭製菓
夏目 郁也 本学大学院
西川 良宏 北海道学校事務
平山 忠嗣 吉富製菓
藤岡 等 郵便局
古屋 充宏 未定
曲田 純二 本学大学院
伊東佐恵子 日立ソフト
エンジニアリング
及川 典 自宅勉強
佐々木淳哉 未定
田中 樹 未定
館田 朋彦 青森県
竹原 進 京都府
中澤智賀子 小岩井農牧

戸石 杉夫	本学研究生	成田 明人	自宅勉学	佐藤 雄幸	未定
工藤 耕三	未定	三浦 聖芝	三浦建設	成田 晋子	東洋美装
藤田 桂	海外青年協力隊	石塚 真	未定	八重樫 亮	本学大学院
田中 伸子	群馬県	一戸 孝元	青森県	会津 浩一	青森県
		奥 直樹	東北農政局	及川 健	本学大学院
農業工学科 (35名)		小野寺忠夫	宮城県	境 潤悦	クマイ化学工業
伊藤 智徳	空知大富農協	小松 稔	久保田建設	進藤イワキ	本学研究生
佐藤 佳久	六戸町農協	日野 光宣	鴻池組	千葉 喜美	山形県園試研究生
相馬 均	北奥羽信用金庫	岡田 紀夫	自宅勉学	中島 淳子	ジャパンシステム
須藤 篤志	未定	高橋 吉八	日本道路	山下 一夫	本学大学院
南出 耕市	佐竹製作所	永沢 満	未定	市田 忠夫	青森県
土岐 工	未定	中山 雅博	未定	久保 敬雄	本学研究生
中野 隆之	一巳農協	原 和彦	未定	黒川 晃次	北海道庁
三井 勇治	未定			真田 雅宏	未定
野呂 弘志	津軽ヤンマー	園芸学科 (30名)		山田広市朗	山形県
松橋 孝	三菱農機	石岡 徳孝	東部兼商販売	渡 康彦	本学大学院
笠原 豊	福田組	今井 照規	未定	西原 邦夫	未定
柿崎 隆	大豊建設	菊池 昌彦	青森県		
佐藤 勝幸	三井不動産建設	木村 才樹	自営(農業)	大学院 6名	
阿部 秀人	北海道庁	今 満	青森県	農学科 (2名)	
鈴木 康治	アイサワ工業	松倉 明美	サンフィッシュ商事	佐藤 幸信	北海道庁
東館 充	日本水工コンサルタント	柿崎 浩之	本学研究生	玉田 賢治	未定
宮形 威行	東建地質調査	三浦 敏史	青森県	園芸化学科 (2名)	
今井 隆	青森県	大塚理美子	未定	武内 省一	焼酎会社
須藤 進	山武北山建設	赤川 敬子	サンフィッシュ商事	桧山 透	エッセクス日本
外館 要一	久慈市役所	五十嵐悦子	未定	園芸学科 (2名)	
館山 清吾	細川産業	木村 弘生	未定	馬淵 正人	農林水産省
坪井 満正	広島県	坂田 俊晴	エース産業	桐谷 幸生	未定

教室 だ よ り

<作物学講座>

作物学講座は農学部校舎4階の一角を占めている。教官3人は昭和38年以来編成は変わっていないが、連続5期学部長を務める佐々木先生は小3の孫をもつ身となり、福重先生は結婚適令期の娘をもつ年となり、工藤先生の娘は中2となった。

卒業生の勤務先は北は網走から南は姫路まで分布しており、青森県内40人、北海道23人、東北21人となっているが、最近では青森県内での勤務先数は減少傾向である。

成田極見氏(33年卒)は趣味で始めたダッ

チアイリス園をもっており、日本一(?)の品種数を誇っている。戸沢英男氏(38年卒)は「とうもろこしの栽培技術」(農文協)を著している。勝川光義氏(48年卒)は母校の修学旅行で藤崎農場を活用し、りんごの体験(もぎとり)学習を実施した。新田政司氏(49年卒)は同期・同講座の学友を生涯の伴侶としておりほほえましい家庭を築いている。

学生の就職希望は公務員への志向が強く、58年は北海道:1、青森県:2、秋田県:2、茨城県:1となっている。また、58年卒生は

共通第1次試験を受けた1回生であるが、農学コースの推薦入学生(坂田:青森県庁)が

社会に巣立つ初年目でもある。(K.K)

〈園芸産物利用講座〉

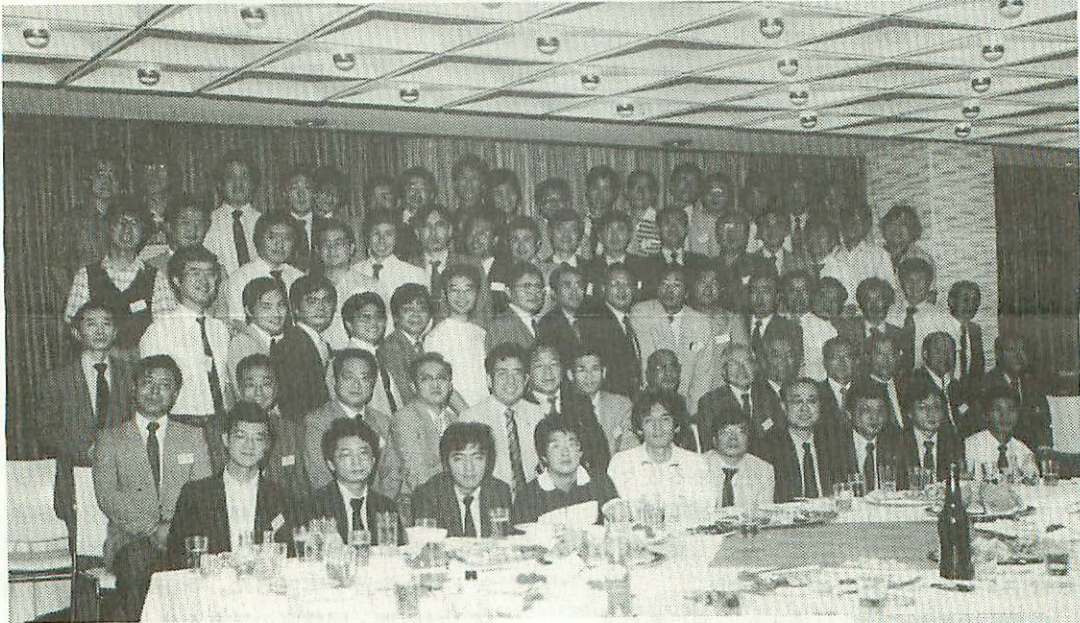
現在、我等が研究室の教官陣は、江戸の下町っ子こと岡本辰夫教授を始め、黄色いダイハツ軽自動車と黒いゼブラミニサイクルを乗り回す原田順厚助教授、コーヒーとカラオケをこよなく愛する木村繁昭助手に続く錚々たるメンバーです。あと一人、10年間の大学生活をこの春閉じる九州原住民の奇人変人もいました。当研究室では、年々、卒業間際まで単位取得という行為に執着を示す学生が増加しています。勉学熱心というか、悩ましい限りです。昔はそうではなかった、と確信?し

ますが、高額ガラス器具等の破壊を競う?という変な風調も深まって来ました。また、先日、共同の-20℃と-10℃の冷蔵庫を整理しました。その際に、諸先輩方が残された未来への遺産も多数発見されました。色々な意味で、過ぎ去った歴史に涙を流しながら、遺産を流させて頂きます。最後に一言。建前上、決してビール券などは欲しませんので、折りがありましたら、気軽にお立ち寄り下さい。

(学生A)

支部だより

関東支部結成



S57.6.5 於京橋会館

卒業22年目(安倍)、笹島氏(S33年)の電話によって、同窓会名簿(S55年度)を唯一の手がかりに工藤氏(S37年)、吉田氏(

S37年)、小山内さん(S40年)、真岩氏(S48年)などの諸氏に準備委員(幹事)をお願いし、会員諸氏への連絡をしていただきま

した。その結果、「関東支部設立総会」(S57年6月5日)には、大学先生方(森田、佐々木、高安、矢橋、豊川)をはじめ、71名の会員諸氏が、御列席下さいました。すでに支部としては、約251名(園芸化学系118名、農業工学系57名、農学系46名、園芸系30名)の大世帯になっていますので、三割出席でした。特に、最近の会員諸氏は各方面への進出が顕著にみられますが、他大学に比べて、その連

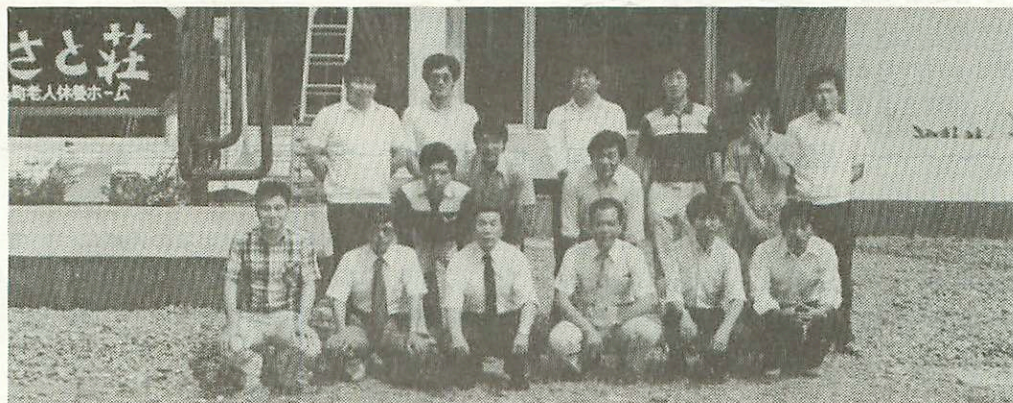
絡は必ずしも満足できるものではありません。勿論、会員諸氏は、各々の場において、人生で最も忙しい時期にあることも事実です。そこで、今後の会運営に御関心のある方は、ドシドシご連絡下さいます様をお願い致します。

(支部長 安倍 義雄)

関東支部事務局 183 府中市日鋼町 1-3-30

-101 卍(0423)62-9804 安倍 義雄

福島会の横顔



北溟寮々歌に唄われているように「北の溟から南を図り」福島に集う者総勢34名、そのうち40才台3名、30才台11名、20才台20名と若い人が圧倒的に多いのが特色で、女性2人を含めて和気合々と云ったムードである。

3年前に松本会長を中心に県内在住者の名簿を作り、初めて懇親会を催してから以後年1回定例的に春、総会と懇親会を兼ねて開催しているが、年々出席会員は増え続けて来ている。宴会は、ワイワイガヤガヤと賑やかであるが、中には会に初めて出席して懐しい顔に出逢い旧交を暖め合っている姿が見られる。

会員の仕事内容は、種々雑多だが殆んどは自分の専修知識を生かして農業或いはそれに関連する仕事に就いて官庁や学校関係者が多く、全体の $\frac{2}{3}$ を占めている。そのせいか県外出身者が半数を超えている。

県内出身者では、農業後継者として果樹栽

培に意欲的に取り組んでいる若い会員が数名居り頼もしい限りだ。

中には農学部を卒業した後、一念発起して歯医者を目指して更に勉学中の者もいるが、この場合は特殊な例と云えよう。

総会に先がけて毎年名簿作りをしているが役所関係者の場合転勤が多く、それに伴って住所の変更があり、また、民間会社の場合でも県外への転出或いは県内への転入があっても本人からの申し入れがない場合不明で、その消息を把握するのに苦慮している。

最後に今在学している人達は福島県出身者に限らず是非福島県内に就職し、大いに福島会を盛り上げてくれる様に希望します。

(支部長 松本 馨)

福島会支部事務局 960 福島市杉妻町 2-16

卍(0245)21-1111 福島農地事務所

亙沢 国美

★定期総会開催のお知らせ

2年ごとに開かれる定期総会の日程が決まりましたので御案内いたします。

日時 5月3日(憲法記念日)午後2～5時
場所 大和家 弘前市百石町 (36)6633
議題 1. 農学部創立30周年記念事業
2. 規則改正 3. 会計報告
4. 役員改選 5. その他
多数の御出席をお願いいたします。

なお総会終了後には、恒例によって懇親会が行なわれますので、同封の住所等変更通知葉書の連絡事項欄に、総会、懇親会の出欠を御記入の上投函下さい。会場準備のため受付期限は4月25日といたします。

なお懇親会会費は4000円となります。

他大学へ移られた先生

氏名	学科	現況
大塚嘉一郎	農工・教授	岩手大農学部
矢橋 晨吾	農工・助教授	千葉大園芸学部

慶事

斎藤 善一、園化・教授
昭和57年度日本酪農科学会賞授賞

弔事

小出維夫先生(農地工学助教授)
林 昭子(農産52) 工藤哲男(植病33)
松尾淳一(土肥56) 千葉省治(畜産中退)
福田勝男(畜産41)

事務局から一お知らせとお願い一

◆正会員数の増加について

前年は、会員の皆さんの御協力により、会員名簿の発行に全力を注ぎました。お陰で140頁近い名簿(前回は115頁)を完成させることができましたことは、会員の皆様ともども喜ばしい限りです。

正会員の数は、今春の新しい会員加入によって2千百余名となりました。同窓会と母校が益々発展して行くことを期待しております。

◆会員名簿の誤記について

でき上がった名簿について、落丁と誤記のご指摘を頂きました。皆さんの名簿に対する関心の高いこととして受け取っております。事務局としては申し訳ないことであると同時に有難いことと思っております。ご指摘頂いたことは、逐次名簿台帳に訂正を加え、会員との連絡に極力落度のない様つとめますので、

御容赦下さい。

◆勤務先、居住先変更事項の連絡について
変更事項があった場合には、同封の郵便料同窓会払いの葉書にご記入の上、必ずお知らせ下さい。

◆事務局の最近の動き

昭和60年の母校農学部創立30周年記念事業にむけて、同窓会事務局の主力を注いでおります。近々、農学部教授会ならびに同窓会によって、準備委員会が結成されることとなりますが、事務局はこの台所役を担うこととなります。

記念事業を盛大に行なうため、皆さんの御醸金をお願いすることとなります。5月には具体的作業に入りますが、その時に詳しくお願いを致すこととなりますので、御支援をお願い致します。

◆編集後記◆

同窓会会報第1号をお届けいたします。バラエティに富んだ内容にしたいと思いましたが、第1号ということや、創立30周年事業、新入正会員の進路状況の報告が中心となりました。

頁数に限りがありますので、不足は多いのですが、今後年1回は発行し、楽しい情報交換の場といたしたいと考えております。皆さんからの御投稿も期待しています。